

田畑忍教授略歴および著作目録

(太田  
田  
雅毅  
夫編)

経歴

業績

一九〇二・明治三五年

一月二二日 滋賀県栗太郡草津町(現在、草津市)に生れる。

一九二七・昭和二年

三月 草津小学校・同志社中学を経て、同志社大学法学部政治学科を卒業  
四月 同志社大学法学部助手に嘱任せられる。

一九二八・昭和三年

著書 高木庄太郎小伝(城南会)四月

一九二九・昭和四年

翻訳 ソビエト・マルキシズム批判(マックス・ヴェルナー)(論叢二五号)二月

一九三〇・昭和五年

翻訳 歴史とは何ぞや(キヤトラン)(論叢二九号)六月

一九三一・昭和六年

四月 同志社大学法学部講師に嘱任せられる。外国書講読を担当

一九三二・昭和七年

訳書 マックス・アドラー「政治的民主主義と社会的民主主義」(政経書院)十一月

一九三三・昭和八年

翻訳 法に於ける危機(von Karl Fees)(一)～(二)(論叢三七～三八号)二～六月  
著書 帝国憲法逐条要義(上卷)(政経書院)六月

四月 同志社大学法学部 翻訳 法に於ける危機(von Karl Fees)(三)(論叢四一号)  
助教授に嘱任せられる。 論文 マキャベリの政治思想(一)(論叢四〇号)二月

政治学・憲法の講座を担当

一九三四・昭和九年

著書 帝国憲法逐条要義(下卷)(政経書院)三月

論文 国権・統治権及び主権の同似性に就て(論叢四四号)二月

一九三五・昭和一〇年

論文 独裁政理論の一定型(公法雑誌一卷一号)一月——憲法学的に考察したる憲法概念  
についての一断想(論叢五〇号)一〇月——憲法学の法律学体系における地位(日本  
評論一〇卷一〇号)一〇月

その他 新刊紹介・具島助教授著「ファシズム独裁と労働統制」を読む(論叢四八号)二月

——岩崎卯一著「日本憲法の社会学的理解」(公法雑誌一卷五号)五月——岩崎教授  
の力作「日本憲法学論の現実科学的把握」に就て(論叢四九号)六月——公法判例解  
評・府県制(管理人ある家屋の公売処分に対する訴訟期間の起算日、完全なる効力  
を有せざる差押処分を前提とする公売処分)(公法雑誌一卷六号)六月

一九三六・昭和二年

著書 帝国憲法逐条要義(政経書院)——憲法学の基礎理論(日本評論社)四月

論文 憲法史的研究に就ての独断(公法雑誌二卷一号)一月——法律解釈の科学的可能(論  
叢五一号)二月——法の政治性と法律学の政治性(論叢五二号)六月——加藤弘之の

国家思想(上)(論叢五三号)一〇月——政治概念規定の諸類型(公法雑誌二卷一〇号)  
一〇月

翻訳 ケルゼン・国家形態と世界観(一)(論叢五四号)一〇月

その他 新刊紹介・憲法に関する最近の単行文献(論叢五一号)二月——公法判例解評・町村

制・衆議院議員選挙法(町村議員選挙罰則違反としての投票の増減及び偽造行為)(公  
法雑誌二卷一号)一月——電信法(私設電話に対する電柱税の賦課と電信法第一条

の解釈)(公法雑誌二卷二号)二月——国有財産法(国有林野と取得時効の問題)(公法雑誌二卷三号)三月——兵庫県令第四二号・鉱泉地区取締規則(温泉利用停止処分の依拠法条項の法意、内湯使用が泉源に悪影響し又は公安を害するや否やの認定)(公法雑誌二卷四号)四月——道路法並特別都市計画法(道路舗装負担金と準拠法令)(公法雑誌二卷五号)五月——町村制(訴願裁決書に於ける姓名の脱漏と誤記)(公法雑誌二卷七号)七月——市制(持廻投票と選挙の効力)(公法雑誌二卷八号)八月——土地収用法(土地収用法第二二条及び第五二条の解釈)(公法雑誌二卷九号)九月——地方税(戸数割は之を法人に賦課する事を得ない)(公法雑誌二卷一〇号)一〇月——電信法(外国営利法人の所得税納税義務)(公法雑誌二卷一一号)十一月

一九三七・昭和一二年

論文

加藤弘之の国家思想(下)(論叢五六号)六月——シュミットに対立するケルロイターの政治概念(公法雑誌三卷八号)八月——国家統治権に関する加藤弘之博士の説(論叢五七号)十月——憲法と憲法意識(「憲法及行政法の諸問題」佐々木惣一博士還暦祝賀論文集)一〇月——道徳法律進化論の一例——加藤弘之博士の道徳法律観(「論叢五八号」一二月)

翻訳

ケルゼン「国家形態と世界観」(二・完)(論叢五五号)二月

その他

公法判例解説・恩給法(公務傷病の程度に付ては出訴しえない)(公法雑誌三卷二号)二月——恩給法(普通恩給停止に対する訴)(公法雑誌三卷三号)三月

著書

帝国憲法条義(日本評論社)七月

論文

政治に於ける政治家の地位(論叢五九号)二月——国家と政治との必至的関連(一・二・完)(公法雑誌四卷二・三号)二・三月——帝国憲法草案に就て(論叢六〇号)六月

その他

新刊紹介・「明治初年の憲法思想」と「国体法の研究」(論叢六一号)一〇月——佐々木博士祝賀論文集「憲法及行政法の諸問題」(論叢六二号)一二月——公法判例解説・所得税法(愛知県会議員費用弁償規定による給与の性質と所得税)(公法雑誌四卷九

一九三九・昭和一四年

一月 同志社大学法学部  
教授に嘱任せられ今日に  
いたる。

著書

号)九月——国税徴収法施行規則(国税滞納処分たる不動産差押の効力発生)(公法雑誌四卷一―号)一―月

加藤弘之の国家思想(河出書房)四月——法と政治(日本評論社)四月

論文

政治と宗教の關係(一―二・完)(公法雑誌五卷三―四号)三―四月——憲法秩序論(論叢六四号)六月——慣習法の性質に関する私見——森教授の所説を讀みて——(公法雑誌五卷九号)九月——憲法に於ける慣習と条理(一)(論叢六五号)一〇月

その他

新刊紹介・大石義雄著「国民投票制度の研究」(公法雑誌五卷一―二号)一二月・公法判例解説・地方税に関する法律(資産状況の具体的調査と達観的査定)(公法雑誌五卷一―号)一月——營業収益税法及所得税法(必要経費と自己資本の利子並に勞務報酬)(公法雑誌五卷二―号)二月——町村制(補充選挙会と当初の選挙会に於ける当选の効力)(公法雑誌五卷五号)五月——市制(市會議員の応召による公務参与資格の喪失)(公法雑誌五卷六号)六月——鈷業法(鈷業法第九十二条による土地使用の裁決に對する訴題及出訴権者の範圍・同法同条による土地使用裁決の適否)(公法雑誌五卷七号)七月

一九四〇・昭和一五年

論文

憲法に於ける慣習と条理(二)(論叢六七号)二月——官僚主義(「現代教養講座」第四卷・三笠書房)三月——明治初年に於ける大学論の一例(公法雑誌六卷八号)八月——福沢諭吉の生涯及び著書(論叢六九号)一〇月——福沢諭吉の政治思想(一―二完)(公法雑誌六卷一―一―二―号)一一―一二月——政治学と其の研究対象たる政治に就て——戸沢教授の所説に對する吟味——(一)(論叢七〇号)一二月

著書

(増補)法と政治(日本評論社)六月——學問と大学(白揚社)九月——法・憲法及国家(日本評論社)一―月

論文

政治学と其の研究対象たる政治に就て——戸沢教授の所説に對する吟味——(二―三・完)(論叢七一―七十二号)二―六月——独逸指導者に関する異なる二つの見解(公法雑誌

一九四一・昭和一六年

誌七卷四号) 四月——現代の大学及び大学論(「現代学生教養講座」第二卷・三笠書房)七月——加藤弘之の二つの論争に就て(一)(論叢七三号)一〇月

その他 資料・小野梓の学問独立論(論叢七一号)二月

一九四二・昭和一七年

著書 加藤弘之「強者の権利の競争」(日本評論社)九月

四月 同志社大学法学部

論文 国家と社会に関するテンニース及びフィアークントの所説に就て(公法雜誌八卷三

長に嘱任せられる。

号)三月——ナチス・ドイツの国家観(一)(論叢七六号)七月

一九四三・昭和一八年

論文 ナチス・ドイツの国家観(二・完)(論叢七八号)一月——穂積八束博士の国家に関する思想(論叢八〇号)六月——日本民族論——加藤弘之、其の利己斗争的民族論と世界

国家思想——(帝国書院)一二月

一九四四・昭和一九年

論文 文献的に見たる明治日本憲法学史の一断片(論叢八三号)一月——有賀長雄博士の国

一九四五・昭和二〇年

論文 家学(論叢八四号)一〇月

十一月 関西学院大学講

師に嘱任せられ断続して

今日にいたる。

一九四六・昭和二十一年

論文 比較憲法学的に見たる日本民主主義(時論一卷一号)一月——自由の使徒・新島襄と

五月 同志社大学学長

福沢諭吉(時論一卷四号)四月

(第一次)に任命され、法

(経)学部長(一年一〇ヶ

月在任)兼任

五月 京都帝国大学(の

ち、京都大学)講師(兼)に

嘱任せられ数年在職

九月 人文科学委員会委員(兼・数年在職)に嘱任せられる。

一〇月 大阪商科大学(のち、大阪市立大学)講師(兼)に嘱任せられ数年在職

一九四七・昭和二二年

七月 高等試験臨時委員を委嘱せられる(二年在職)——日本公法学会監事を嘱任(数年在職)

一九四八・昭和二三年

三月 京都市公安委員(兼)に嘱任せられ二ヶ年在職

二月 日本政治学会理事(兼)を嘱任せられ、一〇余年在職

一九四九・昭和二四年

三月 京都市公安委員長(兼)に選ばれ一ヶ年在職  
四月 立命館大学講師

著書

新憲法と民主主義(関書院)五月——憲法(「経済大学講義」第四卷)(社会文化学会編)六月——政治学の基本問題(関書院)一〇月——加藤弘之「天賦人權論と社会的ダーヴィニズム」(明治政治思想研究第一冊)(関書院)一〇月  
論文 国家思想について(論叢八六号)五月——新島襄——人と思想——(「中央公論」六二卷一〇号)一〇月

著書

国家について(玄林書房)七月  
近世初期の国家思想——特にルソーの政治思想——(一・二完)(論叢八八・九〇号)一・七月——近世中期の国家思想——特にヘーゲルの国家観を中心として——(季刊法律学四号・有斐閣)六月——大正時代の青年の思想動向(自由文化三卷六号・自由文化協会)八月——政権争奪の論理と政権欲否定の論理(同盟時報五三・五四号・同盟通信社)一一月

著書

憲法学序説(三和書房)四月——憲法学の基本問題(日本評論社)六月——国家と政治との必至的関連(三和書房)九月  
論文 憲法学の展望(法律文化四卷一号・法律文化社)一月——福知桜痴と主権論争(同法一号)六月——政治と社会規範(日本法哲学会・法哲学四季報第三号・有斐閣)八月

(兼)を嘱任せられ、今日にいたる。

一〇月 法学博士の学位を受く(「憲法学の基本問題」)。

一九五〇・昭和二五年

八月 同志社理事(兼)に選任され一期間を除いて今日にいたる。

——法を秩序なりとする学説について(「法と経済の基本問題」恒藤恭博士還歴祝賀論文集)一〇月——法及び政治と国家的社会の法則(佐々木惣一編「人間生活と法及び政治」二月)

著書 憲法学(評論社)五月——政治学概論(法律文化社)六月

論文 基本的人権(法律文化五卷一〇二号・法律文化社)二月——横井小楠の政治思想(公

法雑誌一一卷二号)四月——日本の平和主義の成否(中央公論六五卷四号)四月——

戦争否定の弁証法(基督教文化四七号・新教出版社)七月——明治憲法草案起草者と

その国家思想(一一二)(同法五〇六号)七〇二月——戦争の政治学と平和の政治学

(日本政治学会年報・政治学第一号)一〇月——憲法第一四条第一項にいわたる「信

条」の法意(法律タイムス四卷一一号・法律タイムス社)一一月——福沢先生の革命

及び戦争観(史学二四卷二〇三号)一一月

その他 佐々木惣一博士の片鱗(平安)一一月

一九五一・昭和二六年

一月 日本学術会議会員(第二期)(兼)に当選

著書 憲法学原論(上)(有斐閣)四月

論文 明治憲法草案起草者とその国家思想(三・完)(同法七号)一月——憲法と再軍備(中

央公論六六卷三号)三月——日本再武装論の盲点——伊藤正徳氏の「敢て日本新軍備

を提案す」を衝く——(部落二五・二六号)一〇月——軍事協定の締結と憲法感情——平

和憲法と軍事協定の締結——(世界七〇号)一〇月——講和後の基本的人権——自由と人

権擁護の為に——(中央公論六六卷一二号)一一月——近代後期に現われた三種の国家

思想(上)(同法一〇号)一一月

一九五二・昭和二七年

著書 憲法(末川博編「現代法学の体系」)六月——戦争と平和の政治学(有斐閣)九月  
編著 クライネス法学政治学辞典(創元社)一〇月



四月 同志社大学学長  
(第二次)に選任せられ、  
二年数ヶ月在任  
日本法社会学会理事

論文 違憲の公安条例と正当の判決(労働法律旬報七九・八〇号)一月——近代後期に現われた三種の国家思想(中)(同法一二号)二月——自衛と戦力の問題点——再軍備のために憲法の改悪はできない——(世界七七号)五月——行政協定は憲法違反か(福音と世界七卷三号)五月——官僚主義——その精神的風土——(改造三三卷一二号)九月——防衛力の漸増(世界八二号)一〇月

その他 平和は原爆よりも強い(政界往来一八卷一号)一月——与えられた憲法は守らなくてもよいか(郵政四卷六号)六月——憲法のいのちを奪うな(日本週報二〇八号)七月——学生諸君に告ぐ(世界八一号)九月——無処罰主義の論理(文芸春秋)九月——無処罰主義と放任主義の相異(私大連盟会報)一二月

一九五三・昭和二八年

八月 日本国憲法擁護運動(片山哲氏)に参加

著書 法学概論(三和書房)五月  
論文 憲法改正の法理的限界と法的限界(「法政の諸問題」藤井新一先生還暦記念論文集)一月——憲法第九六条の解釈(同法一六号)三月——明治の平和主義者——日本文化史における新島襄と福沢諭吉——(改造三四卷三号)三月——世界史は平和的共存を強要する(世界八九号)五月——平和憲法改悪論の拾頭(解放一卷二号)七月——MSAと戦力の問題(世界九四号)一〇月——内村鑑三に於ける平和主義思想の展開(思想三五号)十一月——Shonan Yokoi and his political thought (The Japan Annual of Law and Politics, No. 2) 十一月

その他 平和主義憲法の擁護と学術会議(政界往来一九卷一号)一月——ルーズヴェルト夫人の手紙(平和一六号)九月——再軍備と大学(学園評論)一二月

一九五四・昭和二九年

一月 日本学術会議第二部会員(第三期)(兼)に当選

著書 憲法改正論(勁草書房)七月——法と政治の実践(ミネルヴァ書房)一〇月  
編著 学習日本国憲法(福音館書店)三月——必携日本国憲法(福音館書店)一〇月  
論文 一九五四年日本の進路を決する諸問題——憲法——(政界往来二〇卷一号)一月——日本はどこへ行く(同盟時報一三二号)一月——憲法改正の問題点——これをどう理解する

護憲連合京都地本議長に  
選ばれる。

か(平和二四号)五月——戦後青年の倫理について——期待は青年のみ(改造三五  
卷六号)六月——無抵抗主義的平和思想(政界往来二〇卷六号)六月——法的正義と  
道徳的正義(理想二五六号)九月——自由と独裁(京の警察)一〇月——違憲論(中央  
公論六九卷一二号)一二月——学問の自由権——日本国憲法第二三条の解釈(同法二  
五号)一二月

一九五五・昭和三〇年

著書 違憲・合憲の法理(有斐閣)六月

四月 インド及びヨーロ  
ッパ八ヶ国の大学の行政  
視察を兼ねて、ニューデ  
リーに於けるアジア諸国  
家会議、ヘルシンキに於  
ける世界平和会議、パリ  
に於ける世界YMCA大  
会に、それぞれ国民代表  
として出席(六ヶ月間)

論文 最高裁判所による憲法第八一条の違憲的解釈(「訴訟法学と実体法学」中村宗雄教授  
還暦祝賀論集)三月——日本国憲法(恒藤恭監修「法学研究入門」)三月——中華人民  
共和国憲法(同法二七号)三月——日本国憲法と主権尊重の問題(政界往来二二卷三  
号)三月——違憲の条約の憲法論的考察(同法二八号)四月——The importance of  
sovereignty and the Constitution of Japan(同法二八号)四月

一九五六・昭和三十一年

著書 憲法学原論(中)(有斐閣)一月——国の独立と学問の独立(勁草書房)二月——憲法学  
原論(下)(有斐閣)一一月

論文 保守主義の政治論理に対する一つの批判——蠟山教授の「民主主義の弁証法」につい  
て(同法三四号)三月——Two Treaties on Japanese Constitution, (Doshisha Law  
Review No. 1. 1956)——現下日本の国内政治批判——保守党改憲の論点について(開  
拓者五一六号)三月——キリスト教と死刑(ニューエイジ八卷三・四号)四月——戦  
争放棄と戦争放棄の放棄(社会主義五七号)五月——憲法学と政治学(同法二号・同  
法会雑誌)六月——領土問題の法理(世界一三二号)一一月

一九五七・昭和三二年

一月 日本学術会議第二部会員(第四期)(兼)に当選

著書 政治概念論(三和書房)四月——改訂憲法学原論(全)(有斐閣)五月

編著 判例憲法学(ミネルヴァ書房)一〇月

論文 天皇の国事に関する行為(同法四〇号)三月——不平等条約の効力と改廃に関する憲法的考察(同法四一号)八月——政令と緊急権の問題(日本公法学会・公法研究一七号)一〇月——軍事基地の法的基礎(法学及び政治学の諸問題)吉田一枝教授還暦記念論文集)一〇月——Political character of Constitution and Constitutional Jurisprudence, (Doshisha Law Review, No. 2, 1957)——The Pacific Constitution of Japan, Eastern World, Volume XI Number 12, December 1957, Central Printing Press)

一九五八・昭和三三年

六月 憲法問題研究会に参加

その他 明治大帝と日露大戦争(エスポワール三〇号、同志社大学映画研究会)七月

九月 憲法・政治学研究会を創設

論文 大学と大学の教授及び学生の任務(人民一二号)一月——法の下の平等——日本国憲法第二四条一項の解釈——(日本公法学会・公法研究一八号)三月——言論自由の法理(同法四六号)三月——言論の自由と言論的暴力(人民一四号)三月——我国の権力分立制の変遷(綜合法学一号)六月——司法権の独立(法学セミナー三二号)一一月  
The development of the separation of powers in Japan, Doshisha Law Review, No. 3, 1958.

その他

いわゆる七条主義の判決と学説(共同執筆)(綜合法学五号)一〇月——直言直行主義(学術新報三三三号)四月——憲法調査会と憲法問題研究会(関西公論二号)九月——勤評といわゆる「学長グループの良識」について(同法六号・同法会雑誌)一一月

一九五九・昭和三四年

九月 招待を受けて中華人民共和国を、国民代表として訪問、国慶節に列

著書 論文

政治学(ミネルヴァ書房)一月——加藤弘之(人物叢書)(吉川弘文館)七月  
憲法による行政概念の設定——佐々木惣一博士の見解の変遷と不変について——(同法五〇号)二月——憲法第三九条前段後句の研究(同法五二号)三月——政党・総裁・公選(綜合法学一〇号)三月——刑特法の違憲性(法律時報三一巻五号)四月——わが

席の後、中国各地を視察  
(二ヶ月滞在)

国の政体(月刊さんいち七号)五月——通説について——法解釈に於ける通説の問題——(同法五三三号)六月——国際法律家連絡協会の要請に答えた「憲法と条約」の関係をめぐる諸問題に関する私見(同法五三三号)六月——砂川判決の意義(部落一一四号)七月——永世中立政策と憲法(学習の友六九号)七月——公務員の抵抗の基本的責務について(同法五四号)九月——砂川判決に対する上告趣意書の検討(綜合法学一五号)一〇月——条約についての審査権と違憲・合憲決定権の差異との関係について(綜合法学一七号)一二月——抵抗権と抵抗義務について(日本法哲学会・法哲学年報一九五九年)

その他 沈黙の英雄・毛沢東(日本経済新報四二六号)十一月

一九六〇・昭和三五年

編著 討論日本国憲法(共編)(三一書房)一二月

論文 最高裁判所の砂川判決について——安保条約第三条に基く行政協定に伴う刑事特別法違反事件に於ける最高裁判所判決の違憲性について——(同法五七号)二月——憲法と条約の関係について——日本国憲法第九八条の解釈を中心としての再論——(同法六一号)八月——民主主義と権力主義(郵政一二卷九号)九月——試験に立つ日本民族(教育評論九八号)——憲法秩序と法律秩序について(綜合法学二八号)十一月——憲法と政治——一九六〇年の法および政治の分析(共同執筆)——(綜合法学二九号)一二月

その他

書評・保守主義研究(北岡博士)と比較政治制度(重村教授)について(同法五七号)二月——学習憲法学(黒田了一)と憲法基本問題の研究(一円一億)(同法五九号)四月——ハンス・ヘルフリック「一般国法学」(松原訳)(同法六〇号)六月——佐々木哲蔵著「裁判官論」(同法六一号)八月——野村敬造著「憲法要説」(同法六二号)一〇月——中国の大学(現代二号)一月——新しい中国訪問記——人民公社について——(月刊さんいち一六号)二月——毛沢東首席の印象(現代人三三三号)

一九六一・昭和三六年

著書 日本国憲法条義(有斐閣)四月

編著 政暴法(共編)(三一書房)八月

論文 佐々木惣一博士の憲法学(同法六三三)二月——憲法改正論における佐々木説と美濃

部説(同法六四四)三月——「憲法変遷」に関する清宮教授の見解について(同法六五号)四月——法の解釈における主観主義と客観主義——憲法主義に於ける法解釈の問題——(同法六五号)四月——内村鑑三の戦争と平和にかんする政治思想(キリスト

教社会問題研究五号)四月——政治と国会法(共同執筆)(綜合法学三八号)九月——

法学と政治学(綜合法学三九号)一〇月——池田内閣の政策について(現代人九卷一〇号)一〇月——日本の永世中立について——日本国憲法第九条と永世中立主義——

(同法六六号)一〇月——首相国民投票制について(同法六七号)十一月——政治の体制的矛盾と教師の使命について(教育評論一一九号)十二月——憲法擁護の義務(風

格五八号)十二月

その他

書評・憲法調査会事務局刊行「フランス憲法のあゆみ」(野村教授執筆)(同法六四号)三月——「政暴法」について(同法六六号)一〇月——京の私学・同志社と立命館(洛味一〇二集)一月——旧高文最後の試験委員(綜合法学三四号)五月——同志社の学風について(致遠創刊号)一〇月——晩年の徳富蘇峰先生と私(洛味?)

著書 憲法論争——憲法重要問題の研究——(高城書店)一〇月

編著 憲法判例総合研究(ミネルヴァ書房)一二月

論文 憲法的政治における多数決(綜合法学四三三)二月——吉野作造の平和論(キリスト

教社会問題研究六号)四月——憲法の解釈と法律の解釈(「法解釈および法哲学の諸問題」恒藤恭先生古稀祝賀記念)五月——憲法学に於ける論理主義的法実証主義——小

林教授の批判に対する反論として——(同法七一七号)五月——許してはならない憲法改悪(学習のひろば三三)九月——憲法改正問題の焦点(月刊キリスト一四卷六号)六月

——京都学派の法思想について(一)——その源流としての佐々木博士と恒藤博士——(同

一九六二・昭和三七年

七月 憲法研究所を創設

し、その代表委員となる。

法七二号)七月

その他 資料・法規についての一試論—いわゆる訓示規定にかんする磯崎教授の見解につい

て(同法七四号)九月—書評・嬉野満洲雄「現代ヨーロッパ」(同法七二号)五月—

レーヴェンシュタイン教授への手紙(同法七二号)七月

一九六三年・昭和三八年

論文 明治的裁判官の法思想—児島惟謙の場合—(同法七六号)一月—憲法改正の展望(綜

合法学 Vol. 16 No. 1)一月—憲法第十九条の「良心」と第十六条第三項の「良

心」について(同法七七号)二月

その他 書評・自由追求の憲法学、小林教授「日本の憲法理論」(同法七七号)二月—新島

先生と大西祝博士の「良心論」(同志社時報三)五月

(註) 文中の「論叢」は「同志社論叢」の略、「同法」は「同志社法学」の略。